



いのこ野の取り組み

名古屋生まれで名古屋、尾張旭市育ちですが、志摩に住み40年経ちました。幸い、住んでいる地域に専門的な画材を扱う「ボナール」という画材店兼ギャラリー兼サロンがあり、店主やそこに集う人たちのおかげで創作を続けることができました。2014年には、伊勢志摩国立公園志摩半島の賢島対岸に2800坪の土地を購入しました。「人の場所」という大きなテーマの元、この場所を「いのこ野・inocono」と名付け、「暮らしと共にあるアート」という私の作品の集大成として、8年目になりますがずっと作業を続けています。



購入当時、鬱蒼とした敷地には壊れかけた蔵や平屋の家があり不動産屋さんには解体前提の説明をしてくれましたが、上質な伝統的木造建築であり、雨戸や戸がガラガラと普通に開き、屋根の棟筋がまっすぐだったので迷わず修復することにしました。

3代目、4代目の大工、瓦職人、左官屋、板金職人はすべて地元志摩の人達です。(3代目は故人となり残念です。) 修復された旧猪子家住宅と蔵、石門は2017年に国登録有形文化財になりました。



職人さんたちが作業をしている間、私は起伏のある土地ほぼ全面にはびこっていた孟宗竹の伐採をしました。1日10本切れば10日で100本切れると思いながら毎日やりました。ランドスケープデザインの作業と思えば苦ではありませんでした。



伝統的建築物と竹垣で囲った竹林エリア、これらを活用し維持管理していくため、2020年、敷地の片隅に通称「いかに丸太の家」という小さな家を建てました。40歳の若い建築士と26歳の5代目大工が棟梁となり、私たち夫婦の家族、地域の友人ら総勢50人くらいの方が、ヨイトマケ、竹小舞、土壁塗り、三和土土間づくりなどをしました。



いかだ丸太の家は国交省認定の気候風土適応住宅、ウッドデザイン賞、三重県建築賞、中部建築賞入賞という評価もいただき、いこの野は多くの人の「作品」が入れ込まれた魅力いっぱいの場所になりました。

これからは若い世代にいかに継承していくか、毎日作業を続けながらその仕組みを考えています。会員の皆さん、どうぞ伊勢から賢島まで足を延ばして見学に来てください！

プロフィール

竹内 千鶴

愛知教育大学美術科(絵画)卒業

愛知県立大学外国語学部フランス学科卒業

鈴鹿国際大学国際交流センター専門員

志摩市観光協会事務局長

2015年、志摩クリエイターズオフィス立ち上げ。

2016年6月、G7伊勢志摩サミットで弊所の企画・編集したアーティストブック「志摩という国」が志摩市公式贈呈品(おみやげ)として首脳たちへ贈呈。同年10月「志摩という国」のモバイル版冊子を出版。

2017年、m5_architecte、東原建築工房などと進めた、いこの野(旧志摩の小庭)プロジェクトでウッドデザイン賞(建築・空間分野)に入賞。

2020年、三重県木づかい宣言登録事業者に認定。

いこの野webサイト

<https://www.inocono-shima.com>